

宮城県古川工業高等学校と連携協力に
関する覚書を締結しました

6月16日、宮城県古川工業高等学校と連携協力に関する覚書を締結しました。

市では、令和8年度から公立中学校での休日部活動を地域で展開するための環境整備を進めています。古川工業高等学校から提案を受け、県内で初めて、県立高校と教育委員会による、休日部活動の地域展開に係る連携協力の覚書を締結しました。

覚書には、休日部活動の地域展開の支援に関するほか、特定の競技・種目での専門的な指導や、地域クラブの指導者および関係者への研修などが盛り込まれています。

その中で、中学生が古川工業高等学校の11の部活動に参加できる連携事業「地域展開古川工業高校にGO!」を実施する予定です。本事業では生徒だけではなく、中学校の教員や地域クラブの指導者も参加して、指導方法を学ぶことができます。

中学生は学校部活動に限らず、地域の教育力や教育資源を活用したさまざまな活動の中から、自ら取り組みたい活

動を選択することができま
す。
市では、今後も生徒たちの
新たな学びの場の創出に向け
て取り組んでいきます。



▲覚書を取り交わした熊野教育長(左から4人目)と古川工業高等学校校長 佐々木 隆義氏(右から2人目)



▲覚書への署名

令和7年度大崎市総合防災訓練を実施
しました

6月14日、JA古川本店(旧大崎市立富永小学校)で、令和7年度大崎市総合防災訓練を実施しました。古川地域富永地区の自主防災組織を中心とした地域住民をはじめ、消防や警察、自衛隊など約400人が訓練に取り組みました。

住民参加型訓練では、大崎市総合防災ポータルを活用した情報収集訓練や、段ボールベッドの組み立てによる避難所開設訓練などが行われました。また、災害現場を想定した訓練では、大型ドローンによる災害物資の運搬訓練も実施されました。災害時のドローン活用には、道路が寸断され孤立した集落などへ安全かつ迅速に物資を運搬することなどが期待されます。

今後も、訓練を継続的に実施し、災害に強いまちづくりを推進していきます。



▲ドローンで安全に物資を運搬します

第3回「水辺で乾杯 2025 in 江合川」
が開催されました

7月6日に古川地域桜ノ目地区で、「水辺で乾杯 2025 in 江合川」が開催されました。

このイベントは、国土交通省が推進している水辺を活用した「かわまちづくり支援」事業の一環として、江合川沿いの地域住民や地元企業などで構成される「江合川かわまちづくり協議会」が開催した交流事業です。

当日は、地域住民を中心に約100人が参加し、清掃活動に取り組みました。参加者は清掃活動後、高谷地公園でバーベキューを行い、持続可能な水辺の未来について語り合いながら、乾杯をして親睦を深めました。

協議会では、地域の皆さんと連携して今後も江合川の魅力を生かしたまちづくり活動を展開していきます。



▲水辺環境を活用したまちづくりを推進します



大崎市日本刀展示会「見どころ学べる!目で観る刀の教科書展」を開催しました

6月7日から15日までの9日間、市役所本庁舎および地域交流センター(あすも)で、一般財団法人日本刀剣博物技術研究財団の共催により大崎市日本刀展示会を開催しました。

国認定重要美術品「名物 大俱利伽羅 広光」や初公開となった「蜂須賀虎徹」など、約230振りの日本刀が展示されました。財団代表理事で、おおさき宝大使も務める澤口 希能氏による講演や、実際に日本刀に触れることができる体験イベントも開催され、会期中の来場者数は11,000人を超えました。本展示会に関連するイベントも市内各地で実施され、県内のみならず全国から訪れた多くの刀剣ファンで盛り上がりしました。



▲初公開となった蜂須賀虎徹



映画「囁きの河」が上映されました

7月11日から、シネマ・リオネ古川で映画「囁きの河」が上映されました。

この映画は、令和2年7月豪雨で甚大な被害をもたらした熊本県球磨川を舞台に、いまだに残る災害の爪痕と、復興の歩みを描いた作品です。本市のグリーン・ツーリズムの普及に尽力した東洋大学名誉教授青木辰司氏がエグゼクティブ・プロデューサーを務め、大木一史氏の監督・脚本の下、実力派キャストが出演しました。



▲多くの来場客が映画を鑑賞しました

は、大木氏をはじめ、今西孝之役を演じた主演の中原丈雄氏、孝之の息子役を演じた渡辺裕太氏が駆け付け、作品への思いを語りました。本市も、過去10年間に3度の水害を経験しており、映画に込められたメッセージに、多くの来場客が共感していました。



▲左から大木氏、中原氏、渡辺氏、青木氏